



平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成23年8月9日

上場会社名 株式会社 ファルコSDホールディングス 上場取引所 東・大
 コード番号 4671 URL <http://www.falco-sd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平崎 健治郎
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役戦略業務室長 (氏名) 安田 忠史 (TEL) 075 (257) 8585
 四半期報告書提出予定日 平成23年8月12日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績（平成23年4月1日～平成23年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	15,448	7.4	604	106.8	625	126.4	275	-
23年3月期第1四半期	14,377	-	292	-	276	-	20	-

(注) 1. 包括利益 24年3月期第1四半期 233百万円 (-%) 23年3月期第1四半期 5百万円 (-%)

2. 当社は、平成22年3月期より決算日を9月20日から3月31日に変更しております。これにより、平成23年3月期第1四半期（4月1日から6月30日）と、比較対象となる平成22年3月期第1四半期（9月21日から12月20日）の月度が異なるため、平成23年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
24年3月期第1四半期	21	50	-	-
23年3月期第1四半期	1	59	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	
24年3月期第1四半期	37,767	13,044	13,044	13,032	34.5	
23年3月期	36,976	13,032	13,032	13,032	35.2	

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 13,044百万円 23年3月期 13,032百万円

2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
23年3月期	-	-	10	00	-	-	12	00	22	00
24年3月期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24年3月期（予想）	-	-	11	00	-	-	11	00	22	00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期（累計）	31,000	7.0	1,100	27.0	1,000	23.2	500	24.1	38	99
通期	62,500	9.6	2,100	4.8	2,000	5.3	1,000	5.2	77	99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ー 社、除外 ー 社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ①会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ②①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③会計上の見積りの変更 : 無
 - ④修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	24年3月期1Q	12,980,177株	23年3月期	12,980,177株
② 期末自己株式数	24年3月期1Q	243,354株	23年3月期	157,454株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	24年3月期1Q	12,795,480株	23年3月期1Q	12,972,778株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、予想に関する事項につきましては、四半期決算短信 (添付資料) P2 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報等	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災、その後の原子力発電所事故に伴う電力供給の制限等の影響により、生産活動は低下し、消費マインドは落ち込み、経済の先行きは、一部は回復の兆しはみられるものの、依然として不透明な状況となっております。

当社を取り巻く、受託臨床検査市場及び調剤薬局市場は、隔年毎に実施される診療報酬改定・薬価改定の影響に加え、同業社間の競争が激化しております。

ドラッグストア市場は、出店競争の激化、他業種の新規参入に加え、震災後の消費マインドの冷え込みにより、厳しい市場環境となっております。

このような経営環境のもと、当社グループは臨床検査事業のコスト削減及びサービスの向上を目的として、医療用検査試薬等卸の㈱アテストの全株式を取得し子会社化した他、調剤薬局及びドラッグストアの店舗展開を進めました。

このような取り組みにより、当第1四半期連結累計期間の売上高は15,448百万円（前年同期比7.4%増）、営業利益は604百万円（同106.8%増）、経常利益は625百万円（同126.4%増）、四半期純利益は275百万円（同1,275.0%増）となりました。

セグメント別の状況は、次のとおりであります。

① 臨床検査事業

臨床検査事業につきましては、試薬販売に加え、アレルギー検査の出検数が堅調に推移した他、顧客ニーズに即した検査項目の拡販活動及び提案営業並びに新規顧客の獲得を強化するとともに、不採算取引の改善を進めました。このような取り組みにより、臨床検査事業の売上高は7,239百万円（前年同期比8.7%増）、営業利益は306百万円（同16.3%増）となりました。

② 調剤薬局事業

調剤薬局事業につきましては、当第1四半期連結累計期間において、開局等により3店舗増加し、1店舗閉局した他、既存1店舗をフランチャイズ化するなど、事業拡大と効率化を進めました。この結果、当四半期連結会計期間末における当社グループが運営する調剤薬局等店舗総数は109店舗（フランチャイズ店5店舗、ドラッグストア併設店13店舗含む）となりました。

このような取り組みにより、調剤薬局事業の売上高は4,183百万円（前年同期比10.7%増）、営業利益は284百万円（同264.1%増）となりました。

③ ドラッグ事業

ドラッグ事業につきましては引き続き、事業間の経営資源の共有、相互活用できる態勢の構築、既存店舗のリニューアル等の経営の効率化に取り組んでおります。また、当第1四半期連結累計期間において1店舗を開店いたしました。この結果、当連結会計年度における当社グループが運営するドラッグストア店舗総数は63店舗（うち、調剤薬局併設店13店舗）となりました。

このような取り組みにより、ドラッグ事業の売上高は4,041百万円（前年同期比2.7%増）、営業利益は47百万円（同38.2%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産37,767百万円（前連結会計年度末比790百万円増）、負債合計24,722百万円（前連結会計年度末比778百万円増）、純資産合計13,044百万円（前連結会計年度末比12百万円増）となりました。主な増加内容は、連結子会社が増加したことによる影響であります。

(キャッシュフローの状況)

当第1四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1,169百万円減少し4,226百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は131百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益659百万円、賞与引当金の減少額360百万円によるものであります。

投資活動の結果使用した資金は381百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出225百万円、投資有価証券の取得による支出160百万円が要因であります。

財務活動の結果使用した資金は920百万円であります。これは主に、長期借入金の返済による支出668百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の業績予想につきましては、平成23年5月13日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,524	4,356
受取手形及び売掛金	6,787	7,452
商品及び製品	2,677	3,270
仕掛品	124	191
原材料及び貯蔵品	394	373
その他	1,075	1,593
貸倒引当金	△113	△105
流動資産合計	16,469	17,132
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,484	10,482
減価償却累計額	△5,100	△5,160
建物及び構築物(純額)	5,383	5,322
土地	4,710	4,710
リース資産	2,847	2,872
減価償却累計額	△1,123	△1,271
リース資産(純額)	1,723	1,601
建設仮勘定	95	137
その他	8,137	8,179
減価償却累計額	△6,764	△6,804
その他(純額)	1,373	1,374
有形固定資産合計	13,287	13,145
無形固定資産		
のれん	1,268	1,223
その他	516	475
無形固定資産合計	1,784	1,698
投資その他の資産		
その他	5,517	5,868
貸倒引当金	△82	△77
投資その他の資産合計	5,435	5,790
固定資産合計	20,507	20,634
資産合計	36,976	37,767

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,582	7,183
短期借入金	4,700	4,700
未払法人税等	741	319
引当金	681	334
その他	4,403	5,017
流動負債合計	16,109	17,555
固定負債		
長期借入金	3,983	3,259
退職給付引当金	1,420	1,458
役員退職慰労引当金	959	977
資産除去債務	199	200
その他	1,272	1,271
固定負債合計	7,835	7,167
負債合計	23,944	24,722
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,371	3,371
資本剰余金	4,037	4,037
利益剰余金	5,906	6,025
自己株式	△124	△189
株主資本合計	13,191	13,245
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△158	△200
その他の包括利益累計額合計	△158	△200
純資産合計	13,032	13,044
負債純資産合計	36,976	37,767

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	14,377	15,448
売上原価	10,360	11,049
売上総利益	4,016	4,399
販売費及び一般管理費	3,724	3,794
営業利益	292	604
営業外収益		
受取配当金	13	23
貸倒引当金戻入額	—	14
その他	40	31
営業外収益合計	54	69
営業外費用		
支払利息	44	33
その他	25	15
営業外費用合計	70	49
経常利益	276	625
特別利益		
貸倒引当金戻入額	9	—
退職給付引当金戻入額	26	—
負ののれん発生益	—	96
その他	0	0
特別利益合計	36	96
特別損失		
投資有価証券評価損	86	5
退職給付費用	—	12
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	71	—
その他	1	43
特別損失合計	159	62
税金等調整前四半期純利益	153	659
法人税、住民税及び事業税	170	382
法人税等調整額	△38	2
法人税等合計	132	384
少数株主損益調整前四半期純利益	20	275
四半期純利益	20	275

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	20	275
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△15	△42
その他の包括利益合計	△15	△42
四半期包括利益	5	233
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5	233
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	153	659
減価償却費	514	452
のれん償却額	49	46
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△14	△13
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△30	9
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△414	△360
受取利息及び受取配当金	△17	△26
支払利息	44	33
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	71	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	86	5
負ののれん発生益	—	△96
売上債権の増減額 (△は増加)	129	97
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△470	△472
仕入債務の増減額 (△は減少)	894	939
その他	△54	△304
小計	942	971
利息及び配当金の受取額	14	25
利息の支払額	△40	△28
法人税等の支払額	△494	△836
営業活動によるキャッシュ・フロー	422	131
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△310	△225
無形固定資産の取得による支出	△118	△32
投資有価証券の取得による支出	—	△160
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	547	55
その他	46	△17
投資活動によるキャッシュ・フロー	165	△381
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,244	△80
長期借入れによる収入	—	200
長期借入金の返済による支出	△467	△668
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△195	△176
配当金の支払額	△93	△130
自己株式の取得による支出	△0	△64
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,000	△920
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,412	△1,169
現金及び現金同等物の期首残高	8,130	5,395
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	44	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,762	4,226

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

前第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	臨床検査 事業	調剤薬局 事業	ドラッグ 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,662	3,777	3,936	14,377	—	14,377
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	6,662	3,777	3,936	14,377	—	14,377
セグメント利益	263	78	34	377	△84	292

- (注) 1. セグメント利益の調整額△84百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△332百万円及び内部取引の消去に伴う調整額247百万円が含まれております。全社費用は、主に当社の人事・経理部門等の管理費用及び建物の減価償却費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	臨床検査 事業	調剤薬局 事業	ドラッグ 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,238	4,168	4,041	15,448	—	15,448
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	15	—	15	△15	—
計	7,239	4,183	4,041	15,464	△15	15,448
セグメント利益	306	284	47	638	△33	604

- (注) 1. セグメント利益の調整額△33百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△342百万円及び内部取引の消去に伴う調整額308百万円が含まれております。全社費用は、主に人事・経理部門等の管理費用及び建物の減価償却費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。